



『挨拶からはじまるコミュニケーション』

園見学を対応していると、大塚りとするぱんぷきんすの子ども達、素敵だな！と必ず感じることがあります。それは・・・自分達から挨拶をすること。
周りにいる職員が「挨拶しようね」と言わずとも、来客に気づくと一人が挨拶、そして周りの子ども達も気づき、自ら挨拶をしているのです。
見学に来て下さった方からも「自分から挨拶するなんて素敵ですね」と嬉しい言葉を頂いています。

“挨拶”は誰でもできる簡単なコミュニケーションの一つです。

日頃から園でも散歩に出た際に、地域の方に挨拶をしています。
今年もおこなったハロウィンイベントのように、年長が商店街を練り歩き、お店の人と交流を持ったり、活動内容が園内よりも充実することが出来、地域の方との関係性も深まりました。
また、小学校に行ってから何か外で困ったことが起きた際に「このお店の人が知っているから助けてもらおう」と思えるような場所を増やしたい、ねらいもあります。
園の周辺と限られてはいますが、地域全体で子ども達を見る関係性を作っていきたいと考えています。

【小さい頃から挨拶が出来るようになると、どんなメリットがあるのか・・・】

- ・第一印象が良く、相手の心に入りやすくなります。
- ・人との関わりがスムーズに出来る力が自然に育ちます

挨拶は相手とのコミュニケーションの「きっかけ」です。
この「きっかけ」が上手（自然）に出来るようになると、人とのコミュニケーションを取る“力”も大きく育つことになると思います。
皆さんは恥ずかしがっている我が子に、ついつい「ほら、先生におはようは？」と聞いていませんか？
(私も以前は言っていました)
子どもに言って欲しいと思うのであれば、まずは家庭内で「おはよう」「おやすみなさい」「いただきます」「ごちそうさまでした」という言葉が自然と飛び交う環境を作っていくことが大切だと思います。
子どもはその環境を通して、言うタイミングを学んでいます。
(子どもって親をよく見てますよね。年長の我が息子もだんだん言うセリフが私に似てきました(笑))
挨拶を通して、子どものコミュニケーションスキルが身に付くといいですね。

(宝田)

